『天皇杯』令和元年度全日本レスリング選手権大会

体育学校レスリング班 制覇 5つの階級を

令和元年 12月19日から22 日までの間、東京都駒沢体育館で天皇杯令和元年度全日本レスリング選手権大会が行われた。体育学校からは岡太一１等陸尉以下レスリング班 OB を含めた38名が出場した。まだ五輪出場者が未内定の階級には出場階級を変更した強豪選手がひしめき、五輪直前特有の大波乱が数多く巻き起こった。かつての五輪メダリストが敗れるという波乱のなか、全30階級のうち体育学校の選手が５つの階級で優勝の成果を収めた。

大会３日目、男子グレコローマン67kg級では2019年世界選手権63kg級を制した太田忍選手（ALSOK）を井ノ口崇之３等陸曹が開始から２分10秒、投げ技を決めテクニカルフォール（規定の得点差による勝利）で大勝利し波乱を起こすと、同日の男子フリースタイル74kg 級では、今年世界選手権５位で国別出場枠を獲得した奥井眞生２等陸曹が、まさかの初戦敗退。また、同階級準々決勝まで勝ち上がった高谷大地３等陸尉は準決勝で、本大会２連覇中で2018 年アジア大会３位の藤波勇飛選手（ジャパンビバレッジ）に積極的な攻撃をして得点を重ね、開始２分17 秒、15 対５のテクニカルフォールで勝利した。高谷３尉と井ノ口３曹の両名は惜しくも優勝を逃しはしたが、次々と巻き起こる波乱の展開に満員の客席は大いに沸いた。

フリースタイル FREESTYLE

2月のプレーオフで奥井2曹と代表争い 乙黒

男子フリースタイル 74kg 級に出場した乙黒圭祐２等陸曹は１回戦をフォール（相手の両肩を１秒間マットに付ける）で圧勝し勢いに乗った。準々決勝では４ポイントを先取され苦しい展開となったが、粘り強く攻め続け４ポイントの大技を成功させビッグポイント※1 で勝利を決めた。準決勝は同門の保坂健２等陸曹との対戦。保坂２曹の１ポイントリードで劣勢の試合運びだったが、１ポイントを取り返すとラストポイント※2 で優勢勝ちし決勝に駒を進めた。迎えた決勝の相手は同門対決の高谷３尉。互いに積極的に攻め続けた攻防戦を見事に制し、61kg 級、70kg 級を合わせ３階級で２年ぶり３度目の全日本王者に輝いた。２月に行われるプレーオフで同階級世界選手権代表の奥井２曹と五輪出場をかけ戦う。試合後乙黒２曹は、「自分のスタイルを貫いて結果につながった。次のプレーオフで勝つために今から仕切り直し、もっと強化できるよう頑張りたい。」と語った。

お互い手の内を知り尽くした同門の
高谷３尉に勝利し、優勝を遂げた乙黒２曹（左）

負けられない一戦を勝ち抜いた赤熊２尉（右）

因縁対決を制し強さを見せた 赤熊

男子フリースタイル 97kg 級の赤熊猶弥２等陸尉は第１シードで準々決勝からの出場。園田平２等陸曹との同門対決では相手に１ポイントも与えず勝利すると、準決勝でも６ポイント差で勝利し順調に決勝戦進出を決めた。決勝の相手は昨年と同じく山口剛選手（ブシロード）で、絶対に負けられない一戦となった。赤熊２尉は序盤から相手に一切の隙を与えず、プレッシャーをかけ続けた。強い気持ちで攻め抜きポイント２対０で勝利。２年連続３度目の優勝を決めた。試合後赤熊２尉は、「勝てたが納得はしていない。何度も対戦してお互いを知っているので、攻めきれなかったのは相手も同じ。プレッシャーをかけたことで勝利に繋がった。」と試合を振り返り、「３月のアジア予選で五輪出場枠を取って出場を目指したい。」と語った。

グレコローマン GRECOROMAN

鉄壁の守り 王者の貫禄見せた 角

男子グレコローマン 87kg 級の角雅人３等陸曹は、第１シードで準々決勝からの出場。初戦をテクニカルフォールで勝ち進むと、準決勝も４ポイント差をつけ決勝へと駒を進めた。決勝の相手は鶴田峻大３等陸曹と昨年と同じ同門対決となった。

角３曹に最初のパッシビティ※3 が与えられ鶴田３曹が１ポイントを先取するも、続くパーテレポジション※4 で鶴田３曹からの攻撃を見事に守り抜いた。

第２ピリオドで鶴田３曹にパッシビティが与えられると、角３曹は鶴田３曹に対しパーテレポジションを選択。投げ技で角３曹が４ポイントの大技を決めポイント６対１で勝利し、80kg級での優勝と合わせて３年連続４度目の優勝を果たし王者の貫禄を見せつけた。試合後角３曹は、「今までの勝利の中で一番嬉しい。リオの予選では１回戦で負けて自分に自信が持てなかったが、今は自分に自信がある。このチャンスを生かしてオリンピック出場を目指したい。」と今後の決意を語った。

パーテレポジションからの攻撃を
見事に守り抜いた角３曹（右）

ルール one point!

※1 ビッグポイント
同得点の場合、得点価値の高さによる決定

※2 ラストポイント
同得点の場合、最終ポイント獲得による決定

※3 パッシビティ
グレコローマンの消極性に対するペナルティー。積極的な選手に１ポイントを与え、消極的な選手の姿勢をスタンディングかパーテレポジションのいずれかを選択することができる。

※4 パーテレポジション：
両手、両膝、頭の５点のうち３点以上がマットに着いた姿勢。

悲願の初優勝を果たした田中２曹（左）

フリースタイル FREESTYLE

世界選手権出場の荒木田選手を下し初優勝 田中

男子フリースタイル 125kg 級に出場した田中哲矢２等陸曹は初戦で同門の金澤勝利２等陸曹と対戦した。金澤２曹とは練習から試合まで何度も対戦経験があるだけに、なかなか技を出しきれず苦戦したが、ポイント２対１で田中２曹が辛勝した。続く準々決勝ではテクニカルフォールで勝利し、同門で明治杯（全日本選抜レスリング選手権大会）王者の山本泰輝２等陸曹との準決勝に駒を進めた。田中２曹は積極的に攻め２ポイント差で同門対決を制した。決勝は同階級２連覇中の荒木田進謙選手（athletic camp LION）との油断ならない一戦となった。２ポイント先取と優勢な試合運びのなか、荒木田選手が負傷により棄権したため試合終了となり初優勝を飾った。

試合後田中２曹は「自分のスタイルを貫くことが大切だと感じた。今後はさらに前に出て相手にプレッシャーを与えられる選手になりたい。オリンピックに出場することが最大の目標なので、アジア予選で出場枠を取れるよう頑張りたい。」と語った。

グレコローマン GRECOROMAN

史上４番目の若さでつかんだ全日本優勝 向井

男子グレコローマンスタイル 82kg 級の向井識起１等陸士は、第１シードで準々決勝から出場した。初戦を１ポイント差で制すると、準決勝はテクニカルフォールで勝利し、決勝へ駒を進めた。決勝は同門の川村洋史陸士長との対戦となった。お互いに一歩も譲らない攻防戦が続き、接戦となった同門対決はポイント２対１で向井１士が競り勝った。19 歳 11 ヶ月 27 日という史上４番目の若さで全日本王者に輝いた。

試合後向井１士は「親が見に来てくれていたので、親孝行ができたと思う。昨日の試合を見た親からアドバイスを受け、今日は自分のスタイルを崩さないよう心がけた。」と試合を振り返り、「これからもっと強くなって世界の大会で優勝できるよう頑張りたい。」と、決意を新たにした。

悲願の初優勝を果たした向井１士（左）

世界選手権で初めてメダルを獲得した選手に贈られる表彰

強化本部表彰 古市雅子

今年９月に行われた世界選手権ヌルスルタン（カザフスタン）で行われた世界選手権に出場し、女子 72kg 級において銅メダルを獲得した功績として、古市雅子２等陸曹に日本レスリング協会より強化本部表彰が贈られた。

受賞後の記念撮影（写真中央：古市２曹）

総合成績（メダリストのみ）

フリースタイル

優勝
- 74kg 乙黒圭祐 ２等陸曹（山梨県） 2月のプレーオフへ
- 97kg 赤熊猶弥 ２等陸尉（福岡県） 3月のアジア予選へ
- 125kg 田中哲矢 ２等陸曹（鹿児島県） 3月のアジア予選へ

第２位
- 74kg 高谷大地 ３等陸尉（京都府）
- 97kg 園田　平 ２等陸曹（滋賀県）

第３位
- 57kg 藤田雄大 ２等陸曹（三重県）
- 65kg 鴨居正和 ２等陸尉（香川県）
- 125kg 金澤勝利 ２等陸曹（岩手県）

グレコローマン

優勝
- 82kg 向井識起 １等陸士（広島県）
- 87kg 角　雅人 ３等陸曹（佐賀県） 3月のアジア予選へ

第２位
- 77kg 櫻庭功大 ２等陸曹（秋田県）
- 82kg 川村洋史 陸 士 長（静岡県）
- 87kg 鶴田峻大 ３等陸曹（沖縄県）

第３位
- 67kg 上垣勇二 陸 士 長（奈良県）
- 77kg 阪部　創 ２等陸曹（和歌山県）
- 97kg 木下　駿 ２等陸曹（富山県）
- 97kg 志喜屋正明 ２等陸曹（沖縄県）

女子フリースタイル

第２位
- 50kg 入江ゆき ２等陸尉（福岡県）
- 65kg 今井海優 陸 士 長（京都府）
- 76kg 阿部梨乃 ２等陸曹（青森県）

第３位
- 68kg 古市雅子 ２等陸曹（熊本県）